

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1291200093
法人名	株式会社 相善
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	千葉県松戸市五香西5-3-14 (電話) 047-311-2666

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	2007年12月20日	評価確定日	2008年1月12日

【情報提供票より】 (2007年11月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤12人、非常勤1人、常勤換算13人	

(2) 建物概要

建物構造	(RC) 造り 3階建ての3階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	円 程度			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350円	昼食	600円
	夕食	650円	おやつ	0円
	または1日当たり 1,600円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

登録人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	0名				
年齢	平均 84.8 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松戸外科内科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、静かな緑豊かな場所に立地しており、新築の明るく綺麗で設備の行き届いた建物の中にある。又、クリニックが併設されており急変時にも安心である。
一人一人違う個人が地域の中で「自由」だからこそ「自立」した生活がしていけるようにとの思いを込めて、職員全員で掲げた「18人18色」との理念を日々のサービス提供で実践しようと努力している。食事時間以外は特に決められた日課は無く、本人の自己決定を重視し決して無理強いせず、出来る利用者には掃除・洗濯なども自由にさせ、自立を支援している。
何よりも印象的だったことは、全ての職員が明るく生き生きとして利用者とともに過ごしていることであった。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	開設1年目であり、初めての外部評価受審である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回初めて外部評価を受審するに当たり、各リーダーと職員が一緒になって自己評価に取り組んだ。外部評価の意義を話し合い、外部評価の理解を高め、自己評価をしている中で、多くの「気づき」を得たとのことである。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

第一回の運営推進会議には、地域包括支援センター長や家族が出席し、運営推進会議の目的、あじさいの理念、活動状況とサービス提供状況、今後の予定・運営などを討議した。家族などの意見要望を聞き、例えば入り口のセンサー音改善の要望は早速改善した。次回は12月22日に外部評価自己評価などについて討議する予定である。

面会時や電話時に家族の意見などを積極的に聞くようにしている。家族から職員に直接意見・要望などを多く頂いている。聴取した要望などは即時対応するようにしている。又、ユニット会議などでホーム全体の運営に反映させるようにしている。ご意見箱を設置したり、外部の苦情受付機関があることも説明している。

五香西町会に加入し、夏祭りなどに参加している。又、近隣の牧の原・常盤平地区の人も含めてホームの夏祭りに参加していただいた。福祉センターのハワイアンなどに定期的に参加するなど地元の人たちとの交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ひとり一人違う個人が夫々違う色で輝き一つの大きな「紫陽花」になるようにとの思いから「18人18色」との理念を掲げている。地域の中で「自由」だからこそ「自立」した生活をしていけるようにとの思いが良く伝わってくる理念であり好感がもてる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長を先頭に職員全員で形成した理念であり、入職時は勿論カンファレンス・普段の会話の中でこの理念について話し合い、日々の介護でその実践に努めていることは評価出来る。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	五香西町会に加入し、夏祭りなどに参加又、近隣の牧の原・常盤平地区の方も含めてホームの夏祭りに参加していただいた。福祉センターのハワイアン等の催し物に定期的に参加するなど地元の人たちとの交流に努めている。		ホーム長は、今後、町内会の清掃活動への協力を申し入れたり、回覧板にホームの行事を掲載していただくよう依頼するなど、更に積極的に地域との交流を深めたいとする意欲を持っている。是非実現し、更に地域との交流を深めることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての評価を受審するに当たり、各グループリーダーが職員の意見を聴き、全員で自己評価をするなど外部評価の意義を十分理解し、自己評価の過程で多くの「気付き」も得たとのことであり、その取組みは高く評価したい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第一回目の運営推進会議には、地域包括支援センター長や家族が参加し、理念や日々の活動状況報告とともに家族の意見要望も聞き、例えば入り口のセンサー音については改善するなど具体的にサービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と地域のニーズや状況などについての情報交換をしている。今後更に積極的に市の福祉高齢課の方も含めて当ホームのことをアピールしたいとのことであり、その実施を期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問面会時にはケース記録を見せて暮らしぶりや健康状態等を報告している。ケアプラン変更時には即時報告している。金銭管理は個々に対応し家族に必ず報告している。		ホーム長は、今後ホーム便りを作成し毎月配布する予定にしている。是非実行し、ホームでの利用者の状況などを定期的に家族に報告することも期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話時に、積極的にご意見などを聞くようにしている。家族からは多くの意見などを言っただけではない。聴取した要望などは即時改善対応している。又、ユニット会議などでホーム全体の改善にも反映させている。ご意見箱を設置したり、外部の苦情受付機関がることも説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が意見を言い易いように常にフランクな話し合いをすることにより、すこしでも働き易い職場にし離職者を出さないよう心がけている。この8ヶ月間離職者は無い。ユニット間の異動はしていないが、常にユニット間分け隔てなく利用者顔と顔を合わせるようにし、急な場合にも対応できるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は職員の自主性を尊重し、イベントの企画運営等も職員の創意工夫にまかせ、よい点を伸ばす職員育成方針を実践している。現場でのOJTを中心とし、専門知識研修も織り交ぜた年度研修計画をたて実施している。全職員が生き生きと明るく利用者にサービスを提供している姿は大変印象的であった。		職員の中には、認知症や身体拘束などの最新の知識も習得したいとの意欲的な意見もある。欲を言えば外部研修制度を活用し、受講者による伝達研修を実施するなど、内部専門知識研修の更なる充実を望みたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム協議会に加入している。ホーム長は近隣のグループホームとは個人的に連絡は取り合っている。又、職員を派遣して研修をさせたいとは思っているが相手があることであり実現していない。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時に他の利用者の方や職員と良く話しをしていただき、安心して入居していただくよう工夫している。入居後1・2ヶ月帰宅願望の強い利用者の場合、職員は利用者の時間帯による同一行動を把握して対応したり、一緒に外出したりすることによって早く馴染めるよう工夫している。家族を招いて「芋煮会」を実施するなど家族の来所を促している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材の買い物から献立・調理・配膳・食器洗いまで利用者と職員が一緒に行っている。又、職員が般若心経を利用者に教えていただき一緒に唱和したり、習字の師範だった利用者から習字を習ったり、と利用者同士又職員とともに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話から思いや希望を把握する様にしているが、意思確認が困難な場合は家族からの話や表情、行動から読み取り利用者の意に添える様に努めている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者会議を開催し、アセスメントを基に、入居者・家族の思い、希望を汲み取り、日々の入居者の状況を反映させた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に意見交換やカンファレンスを行い、介護計画を見直している。入居者の状態に変化が生じた場合は、そのつど家族・関係者などと話し合いのもとに変更している。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設施設のカラオケルームや地域交流スペース等、入居者の状況や嗜好に合わせて対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックから月2回往診と希望時には医師より現在の状況の説明を行っている。入居前からのかかりつけ医に継続してかかっている人には受診の支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りについて話をしている。事前に家族と延命について意向を確認し、ホームでのターミナルケアを希望された場合、終末期にも自然に過ごせる様、入居者・家族の意向を尊重した対応を心がけ、医療機関とも密に連携を取っている。過去1名の看取りを行った。		今後は契約時に見取りの指針の公布と、その時点での同意を得るよう検討中である。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の自己決定を最優先しており、決して無理強いせず、入居者の気持ちを傷つけない様、職員間で意識して取り組んでいる。また、記録物は外部漏洩のないよう管理されている		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は決まった日課は無く、押し付けや時間に追われることなくのんびり過ごしている。入居前からの生活習慣で昼食まで寝ている方も居り個々人への対応を弾力的に行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎食食後、入居者と献立を考え、買い物から調理・後片付けまで一緒に行っている。買い物は毎日入居者が交代で職員と共に出かける。ホームの畑で取れる旬の野菜を使った季節感のあるメニューで入居者、職員全員でテーブルを囲み和気あいあいと時間をかけ会話を楽しみながら食事を楽しんでいる。又、食事介助もさりげなく過度にならない様に配慮している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>重要事項説明書には2日に1回と記しているが、朝風呂に入る方、毎日入浴する方もあり、その時の気分や希望に応じ、一人ひとりが気持ちよく入浴出来るよう支援している。入浴を嫌がる場合は基本的に無理強いはいしませんが上手に声かけして誘導するなど、その人に合った対応をしている。また、入浴の有無は介護記録に記入され、入浴状況の確認が可能である。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は入居者一人ひとりの生活歴を参考に得意分野、持てる力を見つけ、それらを発揮できるよう、さりげなく支援を行っている。農作業経験のある方は生き生きとして野菜作りを行い、料理の得意な方は若い職員に味付けを教えながら一緒に調理を楽しんでいる。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や買い物は天気や気分によって毎日メンバーが変わる。外食なども行いなるべく外出の機会を多くするよう心がけている。また、希望に依って葬儀への参列にも付き添っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網が整備され、職員の役割分担が明記されている。消防署の協力を得て定期的に訓練や指導を受けているが、地域との連携はなされていない。また、食料・飲料水も備蓄されていない。		災害などの非常時、地域との連携は重要である。運営推進会議などを通じ、外部との連携強化が望まれる。又、最低3日分の食料・飲料水の備蓄も必要と思われる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量を入居者ごとに記録し、体調管理に留意している。入居者と職員が毎日献立を考えているが栄養士の資格を持っている介護支援専門員に栄養バランスのチェックをしてもらっている。また、個人に合わせて別メニューを用意することもあり、状態に合わせて必要量を摂取できるよう支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや日当たりの良い廊下にもソファが置かれ、思い思いの場所で過ごせるようになっている。窓の外には緑豊かな風景が広がり目を楽しませてくれる。また壁面に季節感を取り入れた飾り付けを行っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具などを持参するよう働きかけている。ベットか畳に布団かを希望に合わせて選択でき、使い慣れた生活用具を持ち込み、居心地の良さに配慮している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。